



Фестиваль российской культуры в Японии-2020



芸術の都サンクト・ペテルブルク音楽会館芸術監督
セルゲイ・ロルドゥーギン特別推薦による



「芸術の大天使館」プロジェクト

Проект Санкт-Петербургского Дома Музыки «Посольство мастерства»

巨匠が見出したきらめく才能! 新進気鋭の実力派演奏家来日公演

ヴァイオリン&オーボエとピアノのコンサート



ヴァイオリン



ラヴィリ・イスリヤモフ
Равиљ ИСЛЯМОВ

2016年第3回全ロシア音楽コンクール優勝(モスクワ)
第12回ベートーベン記念国際ヴァイオリンコンクール
グランプリ受賞(オーストリア)
国立モスクワ音楽院在学中
(ロシア人民芸術家A・ヴィニツキイ教授に師事)
18才

オーボエ



アレクセイ・サヴィンコフ

Алексей Савинков

2013年第1回オーボエオープンコンクール
GNESINFEST優勝(モスクワ)
2015-2016年 音楽祭コンクール
「ピアノ IN ジャズ」優勝(モスクワ)
2016年 国際コンクール
「サラトフは友人を集める」優勝
20才

ピアノ



アンドレイ・チュルコフ
Андрей ТЕЛКОВ

2013ヴィトル国際ピアノコンクール優勝(リガ)
2008ショパン国際コンクール2位(エストニア)
国立サンクトペテルブルク音楽院卒
2012年シューマン国際コンクールディプロマ受賞
29才

2020年 9月10日㈭ 17:30開場 18:30開演
11日㈮ 17:30開場 18:30開演
14日㈪ 17:30開場 18:30開演

横浜／関内ホール小ホール
さいたま／さいたま市文化センター小ホール
西東京／西東京市保谷こもれびホール小ホール

入場料：全席指定 一般2500円 学生1000円

問い合わせ先・チケット：

ロシアン・アーツ ☎03-5919-1051 サウンドポート ☎045-243-9999
関内ホールチケットカウンター ☎045-662-8411 (横浜公演)

招聘：ロシア文化フェスティバル日本組織委員会&ロシアン・アーツ

協力：連邦国家予算文化機関サンクトペテルブルク音楽会館

後援：ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、駐日ロシア連邦大使館

ロシア連邦協力庁、ロ日協会、INARTEX、サウンドポート

西東京市保谷こもれびホール指定管理者(9月14日)

演奏曲目(予定)

- A・ヴィヴァルディ／オーボエソナタ ハ短調 RV53
- L・ヴァン・ベートーベン／ピアノソナタ第5番 ハ短調 op.10-1
- P-I・チャイコフスキイ／なつかしい土地の思い出 op.42/1／ワルツ・スケルツォ op.34
- F・ブランク／オーボエとピアノのためのソナタ ハ長調 FP185
- P-I・チャイコフスキイ／「ドゥムカ ロシアの農村風景」ハ短調 op.59
- M・ヴァインベルグ／ヴァイオリンとピアノのための「モルドワ・ラブソディー」op.47

プログラムは予告なく変更される場合がございます。ご了承ください。

「芸術の大使館」プロジェクト ヴァイオリン&オーボエとピアノのコンサート

曲目解説

石田一志=音楽評論家

A・ヴィヴァルディ ／オーボエソナタ ハ短調 RV53

バロック時代はオーボエの大きいに好まれた時代で、「トランペットに匹敵するほどよく響き、フルートのように柔らかい音も出せる」と評判でした。ヴィヴァルディも積極的に協奏曲の独奏や合奏に用いています。彼が室内楽で用いたのはこのソナタは1曲ですが、名作として愛されています。莊重な付点のリズムのアダージョ楽章で始まる「教会ソナタ」の様式で、アンダンテ、アレグレット、アレグロの4楽章となり、アレグロの終楽章はジーグ風の8分の9拍子です。

L・ヴァン・ベートーベン ／ピアノソナタ第5番 ハ短調 op.10-1

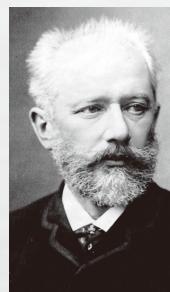
ベートーヴェンのピアノソナタの約半数を占める3楽章形式の最初の作品で初期の代表作の一つです。明快な形式感を備えたソナタ形式の第1楽章、室内楽書法を思わせる美しい緩徐楽章、それにプレスティッキモの緊張感に満ちたフィナーレから構成されています。



P・I・チャイコフスキイ ／なつかしい土地の思い出 op.42/1／ワルツ・スケルツォ op.34

「なつかしい土地の思い出」は1878年に作曲されました。チャイコフスキイが療養で過ごしたことのあるスイスのクラランの思い出とされています。3曲からなりますが、ここでは「瞑想曲」と題された二短調の第1番を取り上げます。

「ワルツ・スケルツォ」は、29歳で早世した弟子でも友人でもあったヴァイオリン奏者ヨーゼフ・コテックのために書かれました。技巧的な作品で、作曲は1877年、翌年パリで初演されました。



サンクトペテルブルグ音楽会館とは



F・ブーランク ／オーボエとピアノのためのソナタ FB185

「セルゲイ・プロコフィエフを偲んで」の献辞のある1962年夏に作曲された追悼曲。二人は共に第1次大戦後の新古典主義のリーダーでした。ところが作曲したブーランク自身も翌63年1月30日に急逝したので、追悼曲が作曲家自身の遺作になってしまいました。全体は3楽章構成で、静かなエレジーのあといかにも新古典主義様式のリズミックでコミカルな味のスケルツォが続きます。最後は胸をえぐるような「挽歌」の終楽章となります。

P・I・チャイコフスキイ ／「ドゥムカ ロシアの農村風景」ハ短調 op.59

「ドゥムカ」は18世紀にポーランドで起こった叙事詩による民謡の形式です。哀歌の部分と楽しげな急の部分の交替からなるこの民謡の形式で作曲されています。

M・ヴァインベルグ ／ヴァイオリンとピアノのための「モルドヴァ・ラプソディー」op.47

ミエチスラフ・ヴァインベルク(1919-96)は、ワルシャワに生まれモスクワで没したユダヤ系作曲家。ショスタコーヴィチがその才能を高く評価していましたが、生前は国外に紹介される機会はありませんでした。ヴァイオリンのクレーメルの活動で、ここ数年、世界的な再評価が素晴らしい勢いで進んでいます。ナチとスターリン体制下の生命の危機、迫害・差別のなかを精力的な創作活動で生き抜いたこの作曲家の、いわば暗闇と光明、涙と笑いが交差する彼の作風は、強く印象的です。これはウクライナとルーマニアに国境を接する小国モルドヴァ(モルダヴィア)の民俗音楽に基づく1949年の作品。同じ作品番号のオーケストラ版も是非聴いてみてください。



2006年2月、クラシック音楽芸術の振興、伝統的演奏芸術の保護、そしてロシアの若手音楽家の国際コンクールおよび音楽祭に照準を合わせた教育・育成を目的にロシア連邦文化省の主導で開設。この指揮を執り芸術監督となったのは、ロシア人民芸術家で元国立サンクトペテルブルグ音楽院学長(2003-2004)のセルゲイ・ロルドギン。同氏は「若手演奏家の育成には、観客との真剣勝負、つまり自分が観客と真摯に向き合うコンサートが必要不可欠」と考えており、賛同する篤志家も少なくない。音楽会館は2006年から2018年に1380を超える演奏会を行った。ロシア国内では地元サンクトペテルブルグ、モスクワ、北カフカス、エカテリンブルグなど、国外ではヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米アメリカのロシア学術文化センターなどで3577回の演奏が行われている。ちなみにサンクトペテルブルグ音楽会館はアレクサンドル3世の兄弟アレクセイ大公の宮殿を使用している。宮殿内にはコンサートホールのほか見学用に開放されている部分もある。